

京都大学

## 生態学研究センター・ニュース No. 70

京都大学生態学研究センター Center for Ecological Research,  
〒520-2113 滋賀県大津市 Kyoto University  
上田上平野町字大塚509-3 Kamitanakami Hiranocho,  
Tel : (077) 549-8200 (代表) Otsu, Shiga, 520-2113, Japan  
Fax : (077) 549-8201  
センター長 中西正己 Home page : <http://ecology.kyoto-u.ac.jp>

## — 目 次 —

教官公募のお知らせ..... 1	公募研究会の報告..... 5
京都大学生態学研究センター運営委員会（第27回） 議事要旨..... 3	国際シンポジウムの報告..... 6
京都大学生態学研究センター協議員会（第37回） 議事要旨..... 3	センター公開・講演会開催のお知らせ..... 8
COE研究員の異動..... 3	2000・01年度協力研究員追加リスト..... 8
共同利用委員会からのお知らせ..... 4	生態研セミナーのお知らせ..... 9
	編集後記..... 9
	今後のスケジュール..... 10

## ===== 教官公募のお知らせ =====

当センターでは、下記の要領で教官を募集いたします。つきましては、貴機関の関係者に周知を賜り、適任者の応募・推薦についてご高配くださいますようお願い申し上げます。

## 1. 採用人員および対象分野

助教授または講師 1名 理論生態学の研究

## 2. 希望する内容

当センターは、1991年4月に設置された10年時限（2001年3月まで）の全国共同利用施設で、時限以降さらに、10年時限の新センターの設置が予定されている。その基本構想は後に記してあるようにプロジェクト方式であるが、基本研究戦略として野外・実験・理論の有機的つながりをめざしている。今回の人事では、理論研究を補強するため、(1) 数理モデルによる研究、または、(2) データベースを使う理論研究の分野を公募する。

いずれの分野にしても、共同研究や情報発信などの情報化に対応するため、ネットワーク管理などの情報技術に精通している人が望まれる。また、真に野外・実験との研究のリンクを作っていくという熱意のある方が望まれる。

## 3. 着任予定 2001年5月1日以後のできるだけ早い時期

## 4. 提出書類

自薦・他薦にかかわらず、以下の書類を提出してください。

- (1) センター長宛の応募文
- (2) 履歴書 1部
- (3) 研究業績目録 1部（主要著作 3 - 5 編に印を付して下さい）
- (4) 主要著作（上記）の別刷等各 1部（これらに関する解説、総説等があれば添付すること）
- (5) 候補者のこれまで行なってきた研究の概要（1000字程度）
- (6) これまでの研究プロジェクトの概要（テーマ、プロジェクト全体としての主要成果、プロジェクト全体への応募者自身の寄与についてできるだけ簡潔にまとめること）
- (7) センターにいられた場合に、どのように次期センターの中心プロジェクト（1つでも、複数でもよい）を展開していくかの研究構想（1000字程度にまとめる）
- (8) 応募者の研究内容について問い合わせることのできる人物 2名の氏名と連絡先
- (9) 推薦書 1通（必ずしも必要ではない）

5. 公募締切

2001年3月23日(金)午後5時までに必着

6. 書類送付先

〒520-2113

大津市上田上平野町字大塚509-3

京都大学生態学研究センター長 中西正己

封筒の表に「教官応募書類」と朱書き、簡易書留によって郵送のこと。

7. 問合せ先

(1) 研究内容等について

生態学研究センター長 中西正己

Tel : 077-549-8210

Fax : 077-549-8201

ホームページ : <http://ecology.kyoto-u.ac.jp/indexj.html>

(2) 提出書類について

生態学研究センター専門職員

Tel : 077-549-8200

Fax : 077-549-8201

8. 生態学研究センターの専任教官

(2001年2月9日現在)

教授

中西正己、和田英太郎、浅野透、山村則男、清水勇、川端善一郎、大串隆之、永田俊

助教授

遊磨正秀、湯本貴和、占部城太郎、杉本敦子、北山兼弘

助手

成田哲也、藤田昇

9. 新センターの構想

目的：生物多様性および生態系の機能解明と保全理論

全国共同利用施設京都大学生態学研究センターは2000年度で時限となるが、同名で10年時限の新センターの設立が予定されている。

近年、自然生態系への人為的攪乱が地球規模で起き、今後も持続的に進行していくことは避けがたい。その結果、生命史上いまだかつてなかった速度で多くの生物種が絶滅し、生物多様性が急速に失われつつある。また、エネルギーの流れと物質循環に異常が生じ、自然のバランスが壊れて本来の生態系の機能が劣化しつつある。このような問題を解決するため、その基礎研究をおこなう生態学への社会的要請は大きい。本研究センターの目的は、生物多様性の創出・維持・喪失のメカニズムや、物質循環を基本とする生態系の構造を解明すること、さらに、人為的攪乱の影響を分析し、生物多様性と生態系を保全するための一般理論を構築することである。このような研究は、生物多様性を保全する意義そのものを明確

にし、人類の活動と自然生態系の調和をはかりながら、持続的な人間と自然の共生を達成するために不可欠なものである。以上の目的を達成するため、国内だけでなくアジア・西太平洋地域で以下のプロジェクトを中心に研究を展開する。

中心プロジェクト：

- (a) 生物間相互作用が生み出す生物多様性：その機構・機能・保全  
(捕食、被食防衛、競争、相利共生、進化的アプローチ、ボトムアップ効果、資源動態、栄養段階動態、間接効果、食物網)
- (b) 水域生態系の構造と機能およびその保全  
(多様性、栄養塩、光、水温躍層、遺伝子伝播、プランクトン群集、水生生物、琵琶湖、実験池、アクアトロン)
- (c) 熱帯林における生物多様性と生態系機能  
(熱帯林、東南アジア、生物多様性、生態系機能、攪乱、一斉開花、共生、バイオリサイクル、ターミトロン、安定同位体)
- (d) 分子解析生態学  
(遺伝子分析、安定同位体分析、環境適応、遺伝子発現調節、環境ストレス、視覚適応、視物質遺伝子、時計遺伝子、代謝変動、ズートロン)

新センターの特色：

新研究センターでは、従来の野外研究を中心とする生態学的手法に加えて次のような特色を出そうとするものである。まず、京都大学で設立をめざしているフィールドステーションおよび、大学共同研究機関(国立研究所)として設立される予定の総合地球環境学研究所(仮称)などと連携して、野外操作実験を有効かつ迅速に行えるような研究体制を作る。一方、分子生物学・微量化学物質測定などの最新技術を駆使して、因果関係を確実に実証できる実験研究体制を作る。このため、シンバイオロン施設を充実する。すなわち、野外で検出したパターンを理論化し記述モデルをつくって、それを実験で検証する。さらに、予測モデルをつくり、それを野外で検証するという、従来の生態学で不十分であった科学的プロセスを確立する。

また、研究機関ネットワークを強化して、国内外の人材の交流も含めて研究交流がスムーズにいく体制を作る。質の高い研究成果をあげること、および、社会的貢献をすることが、研究センターに課せられる最も重要な使命であるが、京都大学理学研究科などに協力し、大学院生の教育によって後継者の養成にも力を注ぐ。

京都大学生態学研究センター  
運営委員会（第二十七回）議事要旨

日 時：2001年1月22日（月）13時30分～15時50分  
場 所：生態学研究センター第二講義室  
出席者：運営委員25名、幹事1名

報告事項：

1. 平成14年度歳出概算要求：要求内容などが報告された。
2. 平成13年度非常勤研究員（COE）：現研究員3名の研究報告書を審査した報告があり、採用後1年の1名を継続採用とし、残る2名を含め今回定数増を要求する関係から募集人員を若干名として公募中である。
3. 平成12年度公募研究会等：公募研究会4件、公募実習1件を採択、実施した。
4. その他：
  - ・地域の一般の方々を対象に2001年3月24日（土）にセンター公開・講演会を実施。
  - ・総合地球環境学研究所（仮称）とセンターの関連について説明があり、その後意見交換が行われた。
  - ・広報委員会等について、センターでの検討状況の報告。
  - ・外部評価の実施状況についての報告。

議題：

1. 教官人事：
  - ・教授2名の補充人事について、それぞれ教授候補者の推薦があり、投票による委員の意見分布を待た。
  - ・助教授の補充人事選考を行うため、人事基準委員会（委員5名）を設置することが承認された。
2. 生態学研究センター改組：新センターの設置に伴う規程案、センター長候補者、協議員候補者、運営委員会委員候補者の選考等を行っていく旨承認を待た。

（文責：山村則男）

京都大学生態学研究センター  
協議員会（第三十七回）議事要旨

日 時：2001年1月29日（月）10時30分～12時20分  
場 所：京大会館103号室  
出席者：協議員15名、幹事1名

報告事項：

1. 平成13年度非常勤研究員（COE）：現研究員3名の研究報告書を審査した報告があり、採用後1年の1名を継続採用とし、残る2名を含め今回定数増を要求する関係から募集人員を若干名として公募中である。
2. 平成12年度公募研究会等：公募研究会4件、公募実習1件を採択、実施した。
3. 協力研究員：2000年～2001年度の協力研究員として79名を委嘱した。
4. その他：
  - ・地域の一般の方々を対象に2001年3月24日（土）にセンター公開・講演会を実施。
  - ・総合地球環境学研究所（仮称）とセンターの関連について説明があり、その後意見交換が行われた。
  - ・外部評価の実施状況についての報告。

議題：

1. 教官人事：
  - ・教授2名の補充人事について、議長が人事選考委員会と第27回運営委員会の審議経過を報告し、候補者を推薦。投票により北山兼弘氏及び高林純示氏を選出した。
  - ・助教授の補充人事選考を行うために、運営委員会に人事基準委員会（委員5名）を設置した。また、総合地球環境学研究所（仮称）へ振替となる助教授定員の取扱いについては、センター長に一任された。
2. 生態学研究センター改組：
  - ・センターの基本規程案について次の各規程案が承認された。
    1. 生態学研究センター規程案
    2. 生態学研究センター協議員会規程案
    3. 生態学研究センター運営委員会規程案
    4. 生態学研究センター長候補者選考規程案
  - ・センター長候補者の選考：投票の結果、山村則男教授が次期センター長候補者として決定された。

（文責：山村則男）

COE研究員の異動

2000年度COE外国人研究員のDavid Bowman氏（オーストラリアノーザンテリトリー大学）が2001年1月4日～4月3日の予定でセンターに滞在中です。

## 共同利用委員会からのお知らせ

### 2001年度（平成13年度）京都大学生態学研究センター 共同利用事業公募要項

京都大学生態学研究センターでは、2001年度の共同利用事業の一部として以下の内容のものを公募します。

#### 1. 公募事項

- (1) 研究会：生態学およびその関連分野での重要な研究課題について、研究結果のまとめ・現状分析・将来の研究計画の作成などを行い、当センターの共同研究の推進に役立つ研究会を募集します。
- (2) 集中講義 & セミナーおよび野外実習：学部学生・大学院生を受講対象とし、全国に公開されるもので、生態学およびその関連分野において重要だが教育の場が限られる課題についての集中講義 & セミナーおよび野外実習の企画を募集します。

#### 2. 開催期日

2001年5月1日から2002年3月20日までの期間に開かれるものとします。

#### 3. 採択件数

研究会約5件、集中講義 & セミナー・野外実習約3件の採択を予定しています。

#### 4. 応募資格

大学その他の研究機関に所属する研究者、またはこれと同等の研究能力を有すると認められる方とします。なお上記のうち研究会は複数の研究機関からの参加があることが条件となります。

#### 5. 申請方法

研究会、集中講義 & セミナー、および野外実習のそれぞれについて、下記の必要事項を記載した申込書を作成し、郵送、ファックスまたは e-mail にて直接当センターに提出してください。

申込書書式：

- (1) 申込者氏名・所属先および職・所属先住所・電話・ファックス・e-mail
- (2) 研究会、集中講義 & セミナー、野外実習の別
- (3) 課題名
- (4) 開催予定日時
- (5) 開催予定場所

(6) 開催目的および内容の概略（400字程度）

(7) 参加予定者の一覧（氏名・所属）

なお、申請が採択された場合、所属機関（部局）の長を通じて正式の研究会等申請書を改めて提出していただきます。

6. 申込期限：2001年4月6日（金）必着。

#### 7. 申込書送付先

〒520-2113 大津市上田上平野町字大塚509-3

京都大学生態学研究センター 共同利用係

TEL：(077) 549-8200（代表）

FAX：(077) 549-8201

e-mail：cernews@ecology.kyoto-u.ac.jp

郵送の場合は、封筒の表に「共同利用事業申込書在中」と朱書きして下さい。

#### 8. 選考

当センターにおいて2001年4月中旬に行います。

#### 9. 所要経費

研究会の出席者、集中講義 & セミナーの講師の旅費、場合によってはその他必要経費の全部または一部を、当センターにおいて支出します。研究会等1件について20万円以内を予定しています。

#### 10. 報告書および論文の提出

- (1) 共同利用事業終了後、1ヶ月以内に報告書を当センターに提出して下さい。なお、提出された報告書は、その全部または一部を当センターのニュースに掲載します。
- (2) 共同利用事業によって得た成果を論文等として発表した場合は、別刷り5部を当センターに提出して下さい。

この公募内容につきまして、不明な点がございましたら、当センター共同利用係に御照会下さい。

公募研究会の報告

林床から森林動態を考えるPart III  
- キーストーン種としてのササの生活史とクローナル特性の解析 -

蒔田明史（秋田県立大学生物資源科学部生物環境科学科）

本研究会は2000年12月1日と2日の両日、京都市左京区楽友会館において各地から48名の参加を得て行われた。この研究会は1994年11月に、やはりセンター公募研究会として行われて以来6年ぶりであったが、前回よりも参加者は5割程度増え、また、参加者もかなり入れ替わり、前回から続けての参加者は10名程度だった。

また、3日には滋賀県比良山系へのエクスカージョンが行われ、12名の参加者が一斉開花後23年目のイブキザサ群落の様子を観察した。

研究会は、センターニュースNo. 68でお知らせしたように、<第1部>タケ・ササの開花・更新を巡る諸問題<第2部>日本の森林生態系におけるササの存在<第3部>ササのクローナル特性の解析の3部に分かれて行われ、第1部では、小林幹夫（宇都宮大）・柴田昌三（京大）・渡邊政俊（竹文化振興協会）・西脇亜也（宮崎大）、第2部では、箕口秀夫（新潟大）・阿部みどり（新潟大）・島野光司（電中研）、第3部は、陶山佳久（東北大）・斎藤智之（東北大）・井鷲裕司（広島大）の各氏の発表が一人30分の持ち時間で行われた。また、この他に、一般研究発表として、公募により、以下の4題の発表があった。

小宮元晃（京大農）「北ベトナムの竹林 (*Dendrocalamus membranaceus*) の地上部現存量 - 2大産地、タインホア省とフトン省において - 」

西本裕美（京大農）「孤立化した森林生態系の修復技術に関する研究 - シカ、ネズミの存在がササに与える影響」

渡辺弓子（フリー工業）「光独立栄養培養法を用いた矮性のササ培養苗の大量生産」

武田一夫（鴻池組）「ミヤコザサを活用した法面緑化とその機能の評価」

今回の研究会の議論を通じて、様々な面でササに関する研究の深化を感じた。例えば、開花を巡る問題では、基礎情報の蓄積が進んだことにより、その生物学的な意義についての議論が行えるようになってきたし、ササ枯れを契機とした森林動態の議論に関しても、単にササと樹木の関係のみならず、動物を介在した森林群集のダイナミクスへと発展している。さらには、DNA分析などの手法の導入により、これまでブラックボックスの中にあったササの個性の問題にも光が当たるようになり、生活史を通じてのクローナル特性についての議論も行われた。また、大学院生を中心に熱帯のタケ研究が行われるようになっており、これまでややもすれば分離してしまいがちだったタケとササを一体のものとして議論することにより、今後 bamboo の進化に関する実証的なデータを伴った議論がなされることも期待できよう。今回の一般研究発表では、ササによるのり面緑化についての報告もなされたが、このような応用面についての議論も一層深める必要があるかも知れない。

なお、本研究会の講演要旨集は Bamboo Journal 誌 No. 18 に掲載予定である。関心のある方はご連絡下さい。末尾になりましたが、参加いただいた方々の研究の一層の発展を期待しています。

（連絡先：makita@akita-pu.ac.jp）

- 安部・東・中野氏を偲ぶ会のお知らせ -

日時：平成13年3月18日（日）13：00～16：40

場所：京都大学農学研究科W-100講義室

詳しくは、同封のお知らせをご覧ください。

## 国際シンポジウムの報告

## A Food Web Conference

## 地球環境攪乱下における空間構造と食物網ダイナミクス

## "Food web dynamics in spatial heterogeneity under multiple disturbances"

川端善一郎 (京都大学生態学研究センター)

上記タイトルの国際シンポジウムが、文部省平成12年度国際シンポジウム開催経費および新プロ(科学研究補助金(創成的基礎研究費))「地球環境攪乱下における生物多様性の保全及び生命情報の維持管理に関する総合的基礎研究」(DIVER)(代表:川那部浩哉)によって平成12年12月8日から11日に、京大会館で行われた。国外から15名、国内から7名の演者を招き、一般参加は60名であった。

シンポジウム第1日目は水域の食物網に関する講演が7題あった(国外5名、国内2名)。食物網の時空間変化にウイルス、溶存有機物、腐植物質が強く影響を与えること、分子生物学的手法を用いて新種のバクテリアが数多く見い出され、それらの食物網における機能が重要であること、食う食われる関係が食物網のダイナミクスをカタストロフィックに変化させること、大気中の炭酸ガスが水域と陸域の食物網に影響を与えることなどが示された。

シンポジウム第2日目は樹木を含めた地表および土壌中の食物網に関する講演が8題あった(国外6名、国内2名)。植物と昆虫の相互作用では間接効果を生み出す種の生態特性が、土壌中では機能群の関係やエコシステムエンジニアリングが食物網を形成、維持する上で重要であること、ランドスケープ規模の人為的攪乱が食物網を大きく変化させること、食物網における物質の流れは、土壌無機物、植物、昆虫への流れが卓越していることが示された。

シンポジウム第3日目は異なるエコシステム間や人為的攪乱によってもたらされる食物網に関する講演が7題あった(国外4名、国内3名)。森林と河川を繋ぐ食物網が形成されていること、食物網の形成、維持には食物連鎖の長さ、ストイキオメトリーで支配される物質の流れ、栄養塩負荷などの人為的攪乱が大きく影響していること、水域と陸域の食物網の共通点が難分解性有機物の勾配で説明できること等が明らかになった。

シンポジウム第3日目には全体の取りまとめを行った。全体的には食物網の変化の予測性はシステムの規模が時空間的に大きくなる程、高くなることが示唆された。また、安定同位体分析、分子レベルの解析、野外操作実験等の研究手法が、食物網解析に有効であることが示された。人為的攪乱が規模、量共に拡大する現状では、異なる生態系間に形成される食物網のダイナミクスの解析が重要であることも明確になった。食物網の変化の予測精度の向上、食物網を資源管理に応用する手法の開発、食物網解析に基づいた生態系のマニピュレーション手法

や保全手法の開発、食物網からみた生態系機能の評価などが今後の重要かつ緊急課題として残された。「地球上の物、生物全てが連鎖している」が全ての講演を聞いた後の結論である。食物網解析の目的と意義はどのような連鎖の効果がどのようなメカニズムでどこまで波及するのかを解き明かすことにある。この研究課題はこれからも生物科学のみならず社会的にもきわめて重要な課題であるといえる。

シンポジウムの内容を深め、若手研究者全体のレベルを上げることを目的に、ワークショップ期間中、講演会場でポスター発表を行った。京都大学生態学研究センターの院生を中心とする若手研究者の成果(10課題)が発表された。

シンポジウムの成果は日本生態学会国際誌Ecological Researchに特集号として、2001年12月に発刊する予定で作業を進めている。

参考までに、シンポジウムプログラムを以下に記しておく。

Theme : Food web dynamics in spatial heterogeneity under multiple disturbances

Time : December 8, 2000 ~ December 11, 2000

Place : Kyoto (Kyodai Kaikan, a Kyoto University Conference Hall)

**December 7 (thu)** Arrival & Registration

**December 8 (fri)** <Symposium I>

Food webs in aquatic ecosystems: effects of spatial structure and physico-chemical processes

9:30 - 10:00 Registration

10:00 - 10:20 Opening address and Introduction by

Zenichiro Kawabata (CER, Kyoto University)

10:20 - 11:00 Masami Nakanishi (CER, Kyoto University)

"Plankton community structure, with special attention to eutrophication"

11:00 - 11:40 Louis Legendre (University Paris VI and CNRS, France)

"Pelagic food webs: responses to environmental processes and effects on the environment"

11:40 - 13:20 Lunch Break

13:20 - 14:00 Richard Rivkin (Memorial University of Newfoundland, Canada)

"Food-web control of heterotrophic microbial processes in the ocean: patterns and processes" (tentative)

- 14:00 - 14:40 Ulrich Sommer (Kiel University, Germany)  
"Comparing marine and limnetic pelagic foodwebs: the role of the herbivorous mesozooplankton guild (Copeopoda vs. Cladocera)"
- 14:40 - 15:20 Jef Huisman (University of Amsterdam, The Netherlands)  
"Biodiversity generated by competitive chaos"
- 15:20 - 15:40 Break
- 15:40 - 16:20 Zenichiro Kawabata (CER, Kyoto University)  
"Viral interactions in a hyper eutrophic pond with *Microcystis aeruginosa* bloom"
- 16:20 - 17:00 Jed A. Fuhrman (University of Southern California, USA)  
"Bacterial diversity patterns and viruses in marine plankton"
- 17:00 - 17:30 Discussion

**December 9 (sat) <Symposium II>**

Food web structure above and below ground: consequences of resource availability

- 9:00 - 9:10 Introduction by Takayuki Ohgushi (CER, Kyoto University)
- 9:10 - 9:50 Ichiro Tayasu (Laboratoire D'Ecologie des Sols Tropicaux, France)  
"Utility of stable isotopes for analyzing soil-faunal diversity and ecosystem process"
- 9:50 - 10:30 Heikki Setälä (University of Jyväskylä, Finland)  
"Sensitivity of ecosystem functioning to changes in trophic structure, functional group composition and species diversity in below-ground food webs"
- 10:30 - 10:50 Break
- 10:50 - 11:30 Patrick Lavelle (Laboratoire D'Ecologie des Sols Tropicaux, France)  
"Foodwebs and soil processes: do trophic relationships really matter?"
- 11:30 - 12:10 Hiroshi Takeda (Laboratory of Forest Ecology, Kyoto University)  
"Changes in decomposition processes along a latitudinal gradient: decomposition processes provide niches for the functional groups of soil animals"
- 12:10 - 13:30 Lunch Break
- 13:30 - 14:10 Valerie K. Brown (Centre for Agricultural Environmental Research, University of Reading UK), and Alan C. Gange (Royal Holloway, University of London UK)  
"Interactions between insects and mycorrhizal fungi above and below ground"
- 14:10 - 14:50 Teja Tschirntke (University of Göttingen, Germany)

- "Biodiversity and plant-insect interactions in a fragmented landscape"
- 14:50 - 15:10 Break
- 15:10 - 15:50 Takayuki Ohgushi (CER, Kyoto University)  
"Interaction web on woody plants"
- 15:50 - 16:30 Peter W. Price (Northern Arizona University, USA)  
"Resource driven terrestrial food webs"
- 16:30 - 17:00 Discussion

**December 11 (mon) <Symposium III>**

Food webs in heterogeneous and disturbed environments

- 9:00 - 9:10 Introduction by Norio Yamamura
- 9:10 - 9:50 Norio Yamamura (CER, Kyoto University)  
"Difference in food webs in aquatic and terrestrial ecosystems"
- 9:50 - 10:30 Mary E. Power (University of California, Berkeley, USA)  
"Effects of floods on river food webs, and river-to-forest exchange"
- 10:30 - 10:50 Break
- 10:50 - 11:30 Masashi Murakami (Tomakomai Experimental Forest, Hokkaido University)  
"Dynamic interdependence between terrestrial and aquatic food webs"
- 11:30 - 12:10 Timothy Wootton (University of Chicago, USA)  
"Benefits of a multi-trophic perspective: examples from the study of disturbance"
- 12:10 - 13:30 Lunch Break
- 13:30 - 14:10 Shigeo Yachi (CER, Kyoto University)  
"Food webs, space and disturbances"
- 14:10 - 14:50 Gary R. Huxel (University of California, Davis, USA)  
"Integrating food web and foraging theories using ecological stoichiometry"
- 14:50 - 15:10 Break
- 15:10 - 15:50 Robert D. Holt (University of Kansas, USA)  
"Food webs in space: an overview of recent theory"
- 15:50 - 16:20 Discussion
- 16:20 - 17:00 Summary

報 告

新プロ「生物多様性」研究成果検討会、及び運営委員会が平成13年1月23日～24日に開催され、新プロ各班の報告がなされました。  
(事務局：永田 俊)



京都大学生態学研究センター  
公開・講演会「生態学って何？」開催のお知らせ

生態学研究センターでは、以下のように一般の方を対象とした、センター公開・講演会「生態学って何？」を開催します。

日 時：平成13年3月24日（土）10時～17時  
場 所：京都大学生態学研究センター（大津市上田上平野町字大塚509-3）  
内 容：

センター内公開（10時～17時）

- ・魚の形と食べ方の分化
- ・ミジンコの役割
- ・虫と植物の不思議な関係
- ・ウイルスがいっぱい
- ・湖沼ミニモデルの中の大きな世界
- ・遺伝子の構造を探る
- ・ミツバチの生態
- ・永久凍土上の生態学
- ・熱帯林の林冠研究
- ・琵琶湖観測と底生動物の長期変化
- ・植物の光合成
- ・コンピュータの中に生物を飼う
- ・琵琶湖の微生物
- ・人間の髪の毛の同位体比と食物

講演（14時～15時30分）

- ・琵琶湖の生き物をさぐる 占部城太郎
- ・里山が語るもの 丑丸敦史

参加費用：無料

問合先：生態学研究センター公開・講演係

電話：077-549-8200

FAX：077-549-8201

ホームページ：http://ecology.kyoto-u.ac.jp



＝ 2000年度・2001年度京都大学生態学研究センター協力研究員（Guest Scientist）追加リスト ＝

氏 名 所 属 研 究 課 題

松原健司 淑徳大学国際コミュニケーション学部 中央カリマンタンにおける森林の物質循環と森林修復

----- 生態研セミナーのお知らせ -----

スペシャル

3月9日(金) 14:00~17:00

中西正己(京大生態学研究センター)  
「新・生態学研究センターへの期待」  
Masami Nakanishi (Center for Ecological Research,  
Kyoto University)  
"For the future CER"

和田英太郎(京大生態学研究センター)  
「窒素同位体と40年」  
Eitaro Wada (Center for Ecological Research, Kyoto  
University)  
" <sup>15</sup>N: My history of 40 years"

中静 透(京大生態学研究センター)  
「森林の管理と生物多様性」  
Tohru Nakashizuka (Center for Ecological Research,  
Kyoto University)  
"The effect of forest management on biodiversity"

スペシャル

3月19日(月) 13:00~17:30

Biodiversity and Conservation

13:00~14:00 David E. Bignell (School of Biological  
Sciences, University of London)  
"Diversity of termites: three thousand variations on a  
common theme"

14:00~15:00 Bernard C. Patten (Institute of Ecology,  
University of Georgia)  
"Speculations from network theory on the deeper  
nature of biodiverse and biocomplex ecosystems"

15:00~15:30 Tea Break

15:30~16:30 Yoh Iwasa (Department of Biology,  
Kyushu University)

"Ecological risk estimate of toxic chemicals based on  
population extinction: examples of DDT to herring gull  
and sparrowhawk"

16:30~17:30 Jiro Kikkawa (Department of Zoology,  
University of Queensland)

"Biodiversity for biologists, mathematicians and con-  
servationists: challenges and responses"

Each talk includes 10 minutes discussion time.

問い合わせ先: 京大生態学研究センター 山村則男

..... 編集後記 .....

- ・センターの時限まであと少しですが、センターを地域の方に公開しようと初めての試みをする事になりました。
- ・時限後の新センターで、センターニュースをどのようにするか、少しずつ議論を始めています。
- ・皆様からのご意見をお待ちしております。

京都大学  
生態学研究センター・ニュースの問い合わせ先  
京都大学生態学研究センター・ニュース編集係  
〒520-2113 滋賀県大津市上田上平野町字大塚509-3  
Tel (077) 549-8200  
Fax (077) 549-8201  
e-mail [cernews@ecology.kyoto-u.ac.jp](mailto:cernews@ecology.kyoto-u.ac.jp)

## 今後のスケジュール

### センターの行事

#### 2001年

- 3月9日 生態研セミナースペシャル  
(生態学研究センター)
- 3月18日 安部・東・中野氏を偲ぶ会  
(京都大学農学研究科W100号講義室)
- 3月19日 生態研セミナースペシャル  
(生態学研究センター)
- 3月24日 公開・講演会「生態学って何？」  
(生態学研究センター)
- 3月 センター・ニュースNo. 71 (業績集)

#### 2002年

### センターあるいは京大環境フォーラム、DIWPA関連の研究会

### 関連分野の研究会・シンポジウム

3月23日 IGBP国内シンポジウム(学術会議、東京)

3月27日～30日 日本生態学会年会(熊本県立大学、熊本)

6月1日～6日 10th Pacific Science Inter-Congress(グアム)

7月10日～13日 IGBP Open Conference(アムステルダム、オランダ)

7月19日～20日 滋賀・ミシガン共同シンポジウム「湖沼・流域生態系の持続的管理にむけて」(滋賀県立大学、彦根市)

11月11日～16日 第9回世界湖沼会議(滋賀県)

6月 3rd International Canopy Conference(Cairns, Australia)

## 安部・東・中野博士を偲ぶ会のお知らせ

メキシコでの思いもよらぬ事故で安部琢哉・東 正彦・中野 繁博士が亡くなられてから、はや1年になろうとしております。京都大学生態学研究センターでは、彼らの思い出を語るべく、以下のように偲ぶ会を準備しております。お三方ゆかりの皆様には是非ともご参加いただきたくお願い申し上げます。

日時：2001年3月18日(日) 13:00 - 16:40 会場：京都大学農学研究科 W-100 講義室

### - プログラム -

- 13:00 開会の辞・黙祷の儀  
山村則男 京都大学生態学研究センター教授
- 13:05 - 13:30 偲ぶ会によせて  
長尾 真 京都大学総長  
巖佐 庸 九州大学理学研究科教授  
川那部浩哉 琵琶湖博物館館長
- 13:30 - 14:10 中野さんの思い出  
前川光司 北海道大学農学研究科教授  
占部城太郎 京都大学生態学研究センター助教授  
宮坂 仁 京都大学生態学研究センター研究生
- 14:10 - 15:00 東さんの思い出  
甲山隆司 北海道大学地球環境科学研究科教授  
Bernard Patten ジョージア大学名誉教授  
石井励一郎 東京大学研究員  
平野仁司 文部科学省科学技術・学術政策局政策課
- 15:00 - 15:30 休憩
- 15:30 - 16:10 安部さんの思い出  
武田博清 京都大学農学研究科教授  
David Bignell ロンドン大学教授  
陀安一郎 フランス熱帯土壌生態学研究所研究員
- 16:10 - 16:30 三人の思い出  
橘川次郎 キーンズランド大学名誉教授  
日高敏隆 滋賀県立大学学長
- 16:30 閉会の辞  
中西正己 京都大学生態学研究センター長

注：当日は平服にてお越しください。

当日、会場にて運営費として1,000円をご寄付いただくと幸甚に存じます。

会場の地図は京都大学生態学研究センターのホームページ (<http://ecology.kyoto-u.ac.jp>) でご覧いただけます。

追悼集会についてのお問合せは下記までお願いいたします。

京都大学生態学研究センター

山村則男

TEL: 077-549-8257 FAX: 077-549-8201

Email: [yamamura@ecology.kyoto-u.ac.jp](mailto:yamamura@ecology.kyoto-u.ac.jp)